

まるりん通信



公益財団法人屋久島環境文化財団 Tel.0997-42-2911 FAX0997-49-1018

平成30年度財団支援事業募集のお知らせ

屋久島環境文化財団では、下記の事業の支援金を希望される団体・個人を募集します。各事業、応募多数の場合は審査により決定します。(4/30締切)

なお、本支援金は平成30年度予算の成立等が前提であり、支援事業の内容に変更があり得ることをあらかじめご了承ください。 ※詳しくはHPをご覧ください

◇地域づくり支援事業（イベント枠）

屋久島の地域づくり活動を行うイベントで、事業にかかる財政的な支援を受けていないものに対して支援を行います。支援金：5万円を上限とします。

◇地域づくり支援事業（地域活性化枠）

NPO 法人や、青年団など、地域づくり活動等を行う団体で、事業にかかる財政的な支援を受けていないものに対して支援を行います。支援金：10万円を上限とします。

◇屋久島新特産品開発支援事業

屋久島環境文化村構想に基づく環境文化村ブランドの確立を推進するため、島内で商品の開発等に関する研究や活動を行う団体、グループ等に支援を行います。支援金：10万円を上限とします。

◇屋久島環境ボランティア活動支援事業

屋久島で自然環境保全を目的に活動する団体等に支援を行います。支援金：5万円を上限とします。

◇屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業（※この事業のみ4/15締切）

屋久島、口永良部島において、生物多様性保全を図るため、調査・研究を行っている学校・団体等に所属する個人が行う活動に要する経費に対し、助成を行います。

☆お問い合わせ 屋久島環境文化財団
事業課 Tel. 42-2911

『まるりんと仲間たち オリジナルスキングテープ』 「屋久島ファンクラブ」

の特典に加わります。
ガイドブックなどの特典に
加え、財団オリジナルグッズも
お選びいただけます。
※村センター、研修センターの他
財団HPで販売予定です。

問合せ：村センター TEL42-2900



第4回 『屋久島の里を知ろう』展

期 間：3月1日（木）～3月31日（土）
時 間：9：00～17：00（入場無料）
場 所：屋久島環境文化村センター交流ホール
内 容：多くの人に屋久島の里の魅力を知っていただきたく、各集落の文化や行事・史跡等の展示をします。今回は中間集落です。ぜひご覧ください。

問合せ：村センター TEL42-2900



【休館日のお知らせ】

村センター 3/20(火)、4/2(月)、4/9(月)、4/16(月)、4/23(月)

(ゴールデンウィーク期間中は毎日開館します。)

研修センター 3/19(月)、3/26(月)、4/2(月)、4/9(月)、4/16(月)、4/23(月)、4/30(月)



【村センター 平成30年4月1日からの休館日】

毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は翌日）

年末年始（12月28日～1月1日）ただし、4月29日から5月5日まで、及び7月20日から8月31日までは休まず開館。

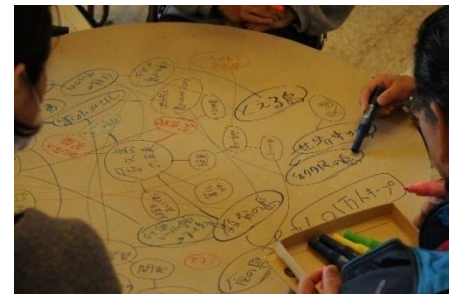
インストラクター便り

「屋久島環境未来ミーティングで見たもの」

インストラクター：福元 豪士

みなさんは「屋久島環境文化村構想」をご存じですか？聞いたことがあるけどよく内容が分からない、という方も多いのではないのでしょうか。屋久島環境文化村構想とは、県総合基本計画の戦略プロジェクトの1つとして平成4年に策定された構想です。屋久島の豊かな自然とその自然の中で作り上げられてきた自然と人間のかかわり（環境文化）を手がかりとして、屋久島の自然のあり方や、地域の生活、生産活動を学ぶ「環境学習」を通じて、自然と人間の共生を実現しようとする地域づくりです。この環境文化を学ぶ環境学習を企画・運営するのが私達、財団インストラクターの役割です。

インストラクターとして勤務し5年目。この「屋久島環境文化村構想」を私なりにカタチにしたものが1月に実施した「屋久島環境未来ミーティング」でした。屋久島には、I・U ターン者などの多様なバックグラウンドを持った方が暮らしていらっしゃいます。視点を変えれば、1人1人が多様な価値観の中で屋久島と共存しながら暮す、環境文化を持っているとも言えます。この1人1人の環境文化を共有し、未来の暮らしを全員で考える場が今回の未来ミーティングでした。この日、約70人の方にご参加いただき、70個の色々な未来のカタチが思い描かれました。「急ぎたければひとりで行け、遠くに行きたければみんなで行くことだ。」これは古いアフリカのことわざです。このミーティングを終え私達は今、屋久島と言う大きな船に乗り、人と人、自然と人間が共生する未来へ進むことができるということを実感した1日でした。



財団活動報告

【1日ゼミナールポタニカルサシェを作ろう】1月28日

寒い冬でもあたりをみまわすと彩りある植物がたくさん！14人にご参加いただき、身近な草花を使ってポタニカルサシェ作りを行いました。ご参加ありがとうございました。

【屋久島子ども森のあそび場～冬の森 de 焼き芋の会～】 2月3日(土)

親子合わせて45人のご参加をいただき、みんなで焚き火を作りながら焼き芋を行いました。みんな美味しい焼き芋に笑顔がこぼれていました。

【星空観察会 宮浦小】2月14日(水)

あいにくの曇り空のなかでしたが、40人ほどの方々にご参加いただき、スライドを使っての星空解説とクイズ大会を体育館内で実施しました。お集まりいただいた皆様ありがとうございました。

【1日ゼミナール 大人の塩づくり】2月18日(日)

サプライズで「永田の塩」の渡辺さんもゲストで参加してくださるなか、美味しい手作りの塩を海水から作り上げ、塩のありがたさをかみしめる1日となりました。

【まるりんカップ野球大会】2月24日(土)

島内の中学校野球大会で、全国離島交流中学生野球大会屋久島代表選考大会として行いました。今回は岳南中が優勝しました。

屋久島を想う 123



「ツマベニチョウの里づくり」 小瀬田小学校 校長 馬庭 逸朗

小瀬田小では、平成28年度、国土緑化推進機構の助成を受けて、ツマベニチョウの飼育舎を作り、飼育活動をしています。ツマベニチョウは、鹿児島県南端以南に生息するシロチョウ科最大の蝶で、羽の先が紅色をしていることから棲紅蝶の名があります。温暖な気候の屋久島ではごく普通に飛んでいます。

屋久島森林生態系保全センターや屋久島総合自然公園の協力を得て、食草であるギョボクやハイビスカス、サンタンカ等の苗木を全児童で植えました。

産卵から30日から40日で成虫になり、春から秋にかけて4~5回発生します。ツマベニ飼育委員会の子どもたちが、毎日、幼虫の観察、外的の駆除、飼育舎内の除草等を行っています。学習では、理科や生活科の観察教材の他、6年生の総合的な学習の時間に飼育観察を一つづつしています。6月、自分の卵を決め、成虫になるまで観察しました。しなやかな紅色の羽を広げたツマベニチョウはとても美しく何度見ても感動します。産卵を終えた成虫は、屋久島の自然の中に放しました。また、ギョボクを実生や挿木で増やす活動にも取り組んでいます。これらの活動を通して、子どもたちが命の大切さや屋久島の自然の素晴らしさに気づいてくれることを願っています。そしてツマベニチョウが舞う里小瀬田・屋久島にできたらなと思っています。 ※馬庭先生は、H8~H10年、財団、村センターに赴任、お仕事されていました。今回、屋久島小瀬田小を最後に定年退職されるとのことで、ご執筆をお願いしました。